

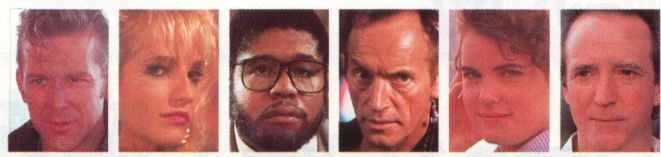
あまりの醜さゆえに、人は呼んだ……
 ジョニー・ハンサム
 顔から過去をそぎとった男。



監督 ■ ウォルター・ヒル / 主演 ■ ミッキー・ローク

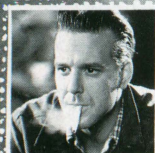
ジョニー・ハンサム

いま全米話題の<ミラード・センセーション> /
 ベネチア国際映画祭 参加作品
 本年度 トービル国際映画祭



エリザベス・マクガバン/フォレスト・ホワイトカー/エレン・バーキン/スコット・ウィルソン/モーガン・フリーマン
 製作総指揮 ■ マリオ・カサル/アンドリュウ・バイナ/脚本 ■ ケン・フリードマン/音楽 ■ ライ・クーダー (サントラ盤) /ワーナー・バイオレコード/原作 ■ ジョン・ゴードイ (早川書房刊) /カロル・プロ超特作/カララ作品/アメリカ映画/東宝東和提供

全米話題の〈ミラード・センセーション〉 '89・秋——最も新しい衝撃が心を揺さぶる!



『俺は自分のために映画を作る。一番矛盾のある役、自分の日常の経験を反映できる役を撰ぶ。だからこの映画の中では、最高にエキサイトした俺が、いる』。

ミッキー・ローク

『ダイナミックでエネルギーに溢れ、私の最も追求する痛烈さのある映画に仕上がった』。

ウォルター・ヒル

『僕の持っている知識とテクニックと感性のすべてをこの映画に注ぎ込んだ』。

ライ・クーダー

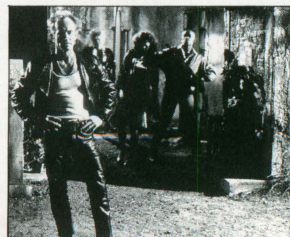
【INTRODUCTION】

■鏡に写る人の姿は、決して人の真の姿やところを写してはいない。それはむしろ虚像である。ありのままであるという、人間本来の姿を、社会という現実のなか、厚い仮面の下に隠しながら生きる現代人たち——。ミラードとはそうした人々が無意識のうちに身につけてしまった社会の中で生き延びるための〈仮面〉である。そして彼らには“ひとの真の姿”は決してわからない。こうした現代の風潮、とりわけ見た目の美醜に対する現代人たちの感性にクサビを打ち、全米を末体験の衝撃で包み込んだ〈ミラード・センセーション〉——ファッションブルに、そしてショッキングに彩られた最新作「ジョニー・ハンサム」の登場である。

監督は「48時間」「レッドブル」のウォルター・ヒル。彼が長年温め続けてきたこの企画は、常に新しい題材を追求してきた結果として新境地を切り拓いた作品となった。主演は「エンゼル・ハート」「ホームボーイ」など個性派のミッキー・ローク。その他エリザベス・マクガバン、エレン・バーキンら実力派が顔を揃え脇を固める。また音楽には、ライ・クーダーを迎え、時に哀愁たどる旋律で、ドラマを一層盛り上げている。

【STORY】

■ジョニー・ハンサム。そんな名とは反対の世にも醜い男。悪の道に入ることしか許されなかった彼が罠にはまり、親友殺しの罪をかぶせられ逮捕された。復讐を誓うジョニーだったが、所内で真犯人の送った刺客によって頻死の重傷を負わされる。そんな彼に注目した一人の男がいた。犯罪のすべては外的要因によるものであり、その醜い顔を整形することによって更生できるというのである。この超実験的な手術を受け入れ、美を手に入れたジョニーだったが、奇跡のメスは、彼の心の奥深くまで届くはずもなかった……。



私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。

見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです。

——新約聖書 コリント人の手紙——

Johnny Handsome ジョニー・ハンサム

本年度〈ベネチア国際映画祭・ドービル国際映画祭〉参加作品/カコロコ・プロ超特作/アメリカ映画/東宝東和提供 DOLBY STEREO

11月上旬ロードショー!

JR有楽町・東宝映画街

目比谷 スカラ座

03
(591)
5355